

NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

第7回通常総会議事録

- 第一号議案 議長の選任
- 第二号議案 放送批評懇談会 2010 年度事業報告
- 第三号議案 放送批評懇談会 2010 年度収支決算
- 第四号議案 放送批評懇談会 2011 年度事業計画
- 第五号議案 放送批評懇談会 2011 年度収支予算

放送批評懇談会

2011年6月18日



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

特定非営利活動法人放送批評懇談会

<第7回通常総会>

- 開催日 2011年6月18日
- 会場 都市センターホテル
- 会勢 <正会員>
186名 (入会6名、退会16名)
<維持会員>
130社 (入会6社、退会5社)
- 出席者 30名
安斎茂樹 石井 彰 今村庸一 入江たのし
碓井広義 小田桐誠 音 好宏 小原道雄
隈部紀生 五井千鶴子 河野尚行 上滝徹也
小見野成一 桜井聖子 嶋田親一 滝野俊一
田代勝彦 田中典子 千葉健吉 水流昌彦
中島好登 丹羽美之 信井文夫 橋本 隆
原由美子 稗田政憲 藤田真文 藤久ミネ
ラリー遠田 渡辺久哲
- 委任状提出者 97名
- 出席予定者と委任状提出者で計127名



NPO 放送批評懇談会

第 7 回通常総会 2011

第一号議案 議長の選任

定款第 27 条「総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する」の規定に則り、出席の正会員のなかから、「渡辺久哲氏」を合議により選出。

第二号議案

放送批評懇談会

2010年度事業報告



2010年度総務事業報告

1. 記念事業プロジェクト

放送批評懇談会50周年の記念事業を検討しました。①記念出版(2009年度に決定)のほか、②ギャラクシー賞トロフィのリニューアル、③データベース事業を記念事業として行うことを決定し、それぞれの検討作業を行いました。

メンバー：音 好宏 橋本 隆 入江たのし 川喜田 尚
隈部紀生 上滝徹也 坂本 衛 嶋田親一
中島好登 永田俊和 藤田真文 藤久ミネ

① 50周年記念出版を藤田真文委員を中心に推進しました。内容は、「放送批評」「GALAC」から100本の論文を選んで採録するものとし、選定委員を選出して具体的な選定作業に入りました。(選定委員：市村 元 碓井広義 小田桐 誠 音 好宏 上滝徹也 坂本 衛 中町綾子 丹羽美之 藤田真文 藤久ミネ/編集委員：小林 毅、小林英美、深川 章)

② ギャラクシー賞トロフィのリニューアル検討を、橋本隆委員、永田俊和委員を中心に行いました。

③ ギャラクシー賞、「GALAC」情報をデータベース化する事業を構想し、川喜田尚委員を中心に事前調査をスタートしました。

2. 財務プロジェクト

会の財務を健全に推移させるため、前年に引き続き財務プロジェクトを組織し、問題点の洗い出しなどを行いました。

メンバー：音 好宏 橋本 隆 石井 彰 市村 元
小田桐 誠 永田俊和 信井文夫
堀木卓也 宮前周司

3. 志賀信夫賞の選考

第2回志賀信夫賞の選考を行いました。正会員による候補者推薦を受け、選考委員会で選考を行い、エフエム東京の後藤亘さんを選定し、6月2日第48回ギャラクシー賞贈



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

賞式で賞状と盾をお贈りしました。

選考委員会：音 好宏（委員長） 橋本 隆 上滝徹也
小田桐 誠 藤田真文

4. 日韓中テレビ制作者フォーラム

2010年10月15日～19日に中国・蘇州で開催された第10回「日韓中テレビ制作者フォーラム in 蘇州大会」に協賛し、取材と研修のために1名を派遣しました。

出張者：中島好登（事務局）

2011年に日本・札幌で行われる第11回大会のため、運営資金の援助を財団法人JKAに申請したところこれが受理され、助成が決定しました。

5. スパイダーの導入

2010年9月より、テレビ録画装置の「スパイダー」を導入しました。

6. 広報活動の件

放送批評懇談会ウェブサイトの充実（検索機能追加、写真情報「ほうこんギャラリー」の開設）、ツイッターでの情報発信などを積極的に行い、ウェブサイトへの来訪者増を果たすなど、放懇の認知度アップ、イメージアップのために努力しました。



2010年度出版編集事業報告

1. 本年度は下記のメンバーで運営しました。

委員長	丹羽美之		
副委員長	飯田みか		
委員	岡田芳枝	古賀靖典	高瀬 毅
	滝野俊一	中村美子	桧山珠美
	水島宏明	山本博史	渡辺久哲
編集スタッフ	中島好登	福島美子	
	久野 明	高橋秀樹	

2. 毎月6日に「GALAC」を発行しました。

1) 下記の特集テーマに取り組みました。

2010年10月号	ネットはラジオの救世主か？
2010年11月号	放送の人材育成を考える
2010年12月号	テレビCMは届いているか？
2011年1月号	第48回上期ギャラクシー賞
2011年2月号	500号記念特集 みんなの放送批評！
2011年3月号	テレビはプロ野球を捨てるのか？
2011年4月号	刑事ドラマ人気の秘密を探れ！
2011年5月号	ネット×テレビ時代、始まる
2011年6月号	ケーブルテレビの地域力
2011年7月号	決定！第48回ギャラクシー賞
2011年8月号	詳報！第48回ギャラクシー賞
2011年9月号	検証！東日本大震災とメディア

2) 発行部数は約4000部を目安としました。

3) 「放送批評」「GALAC」の通巻500号を記念して、両誌の全表紙、全目次を放送批評懇談会のウェブサイト公開するプロジェクトを開始しました。

4) ニフティ株式会社が運営するニュースサイト「@niftyニュース」(<http://news.nifty.com/>)に一部記事の配信を行いました。



2010年度選奨表彰事業報告

1. 本年度は下記の委員の構成で運営しました。

選奨事業委員長 小田桐 誠

<テレビ部門委員会>

委員長 上滝徹也

副委員長 川喜田 尚

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小磯 亮 隅井孝雄
高村 裕 田中早苗 戸田桂太 中町綾子
桧山珠美 藤田真文 吉田正樹

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 高瀬 毅

委員 石原信和 木原 毅 黄 莉香 近藤倫章
さらだたまこ 武田三千代 田代勝彦
塚本 茂 原 きよ 深井教雄 ペリー荻野

<CM部門委員会>

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田家秀樹
田中典子 谷岡理香 本庄雅之 丸茂 巧
茂出木龍太 諸橋泰樹 山川浩二

<報道活動部門委員会>

委員長 碓井広義

副委員長 市村 元

委員 今村庸一 小田桐 誠 加来由子 兼高聖雄
鈴木典之 鈴木嘉一 中村正敏 堀木卓也
宮前周司

選奨事業委員会担当事務局 福島美子

2. 第48回ギャラクシー賞各部門の選考のため、以下の作業を行いました。

<テレビ部門委員会>

- ・2010年4月から2011年3月まで、毎月選考会を開き月間賞4本を選びました。



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

(2011年3月度は2本)。選考結果を「GALAC」誌上に番組一覧表および合評形式で発表しました。毎月20日を情報解禁日とし、月間賞の選考結果をプレスリリースしました。

- ・2010年9月14日から27日、10月12～15日に、第48回上期自薦作品120本を視聴。10月30日、月間賞(23本)と自薦作品の中から上期入賞作品7本を選出しました。
- ・2011年3月14日から28日までに、第48回下期自薦作品129本を視聴。4月24日、月間賞(21本)と自薦作品の中から、下期入賞作品7本を選出しました。同時に特別賞、個人賞も選びました。
- ・4月23日に「制作者と語る会 地域発 テレビ・エンタテインメント」を日本大学芸術学部 江古田キャンパスで開催しました。

<ラジオ部門委員会>

- ・2010年4月から2011年3月まで、毎月ラジオ委員会を開催してラジオについての合評を行いました。
- ・2010年10月、第48回上期31本の自薦作品を聴取し10月20、25日に各部門の上期候補作品を選出。
- ・2011年4月、下期27本の自薦作品を聴取し、4月14、17日に各部門の下期候補作品を選出。
- ・4月19日、上期下期をあわせた候補作品の中から入賞作8本を選出し、DJパーソナリティ賞も選出しました。
- ・2010年7月4日にTOKYO FMレセプションルーム、9月26日に六本木アカデミーヒルズ40で「入賞作品を聴いて、語り合う会」を開催しました。

<CM部門委員会>

- ・3か月ごとにCMの視聴合評会を開催しました。
- ・2010年10月19日、上期122本の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。
- ・2011年4月22日、下期136本の自薦作品を視聴し、13本の候補作品を選出。
上期下期合わせた中から13本の入賞作品を選出。



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

＜報道活動部門委員会＞

- ・ 2010年10月23日、上期9本の自薦作を視聴・聴取し、4本の候補作を選出。
 - ・ 2011年4月16日、下期12本の自薦作を視聴・聴取し、4本の候補作を選出。上期下期合わせた中から6本の入賞作を選出。
 - ・ 「GALAC」連載ページを委員が分担し、地方における報道活動の紹介、各局報道活動への期待、特定のテーマを追う報道活動についての論考などについて執筆。
 - ・ 2010年11月13日、公開シンポジウム「ギャラクシー受賞報道活動を見て、制作者と語る会」を日本大学芸術学部放送学科と共催しました。
3. 2011年6月2日（木曜日）、ウェスティンホテル東京ギャラクシールームにて「第48回ギャラクシー賞贈賞式・懇親会」を開催しました。
- なお、実行プロジェクトメンバーは次のとおりです。
（入江たのし、嶋田親一／中島好登）
出席者は報道陣、スタッフも含めて、約600名でした。



2010年度企画開催事業報告

1. 2010年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成しました。

委員長	藤田真文
副委員長	山田健太
委員	砂川浩慶 永田俊和 中平良磨 藤田高弘 堀木卓也 前川英樹 元橋圭哉 (シンポジウム企画担当)
	小林 毅 小林英美 深川 章 (出版企画担当)
2. 2011年3月8日に都市センターホテル・コスモスホールで、放送批評懇談会シンポジウム2011「ソーシャルメディア時代の放送～ジャーナリズム・コンテンツ・ビジネス～」を開催しました。このシンポジウムは、無視することのできない影響力を持つようになったブログやツイッターなどのソーシャルメディアが、放送と対立し、放送の領域を侵食していく存在なのか。それとも放送の新たな可能性を開くものなのかを、ジャーナリズム、コンテンツ、ビジネスの三つの側面から考えるものでした。放送関連業界の業績回復が道半ばであることから、当日の参加者数が心配されましたが来場者は246人と昨年度を上回りました。また、「ソーシャルメディアとジャーナリズム」のセッションをニコニコ動画と連動してネットで配信するなど、新たな試みに取り組むこともできました。参加者のアンケート、事後に寄せられたメールなどからすると、企画・運用面で高い評価を得ることができましたように思われます。
3. 出版企画では、放懇の50周年記念事業と連動した書籍、『放送批評の50年 (仮題)』の刊行に向けた作業を開始しました。同書は、『放送批評』『GALAC』に掲載された過去の優れた論考・記事を多数取り上げ、各時代の放送の課題、放送批評の問題意識を浮かび上がらせることを目的としています。



2010年度マイベストTV賞

プロジェクト事業報告

1. 以下のメンバーで運営しました。
プロジェクトリーダー 滝野俊一
メンバー 石橋さや夏 永田俊和 桧山珠美
事務局 久野 明
2. Web会員の登録者は1572名（2011年6月14日現在）。ジャニーズのファンが多いため、女性が1439名を占めています。
3. 投票を活発化させるために、幽霊会員、休眠会員の整理を2月に行いました。
4. 第5回「マイベストTV賞グランプリ」が決定しました。Web会員501名に放送批評懇談会の正会員191名（ともに4月24日現在）が加わり、グランプリの投票にあたりました。グランプリ作品は、投票によって決められたノミネート作35本、の中から、最高3本までを投票するという方法で決められ、62票を獲得した「フリーター、家を買う。」（フジテレビ）が荣誉に輝きました。また、投票されたWeb会員の中から1組2名を、プレゼンターとしてギャラクシー賞贈賞式に招待しました。贈賞式ではプロデューサーが登壇し、トロフィ、賞状を受け取りました。

第三号議案

放送批評懇談会

2010年度収支決算

収 支 計 算 書

2010年4月1日～2011年3月31日まで（単位：円）

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	2,800,000	2,310,000	490,000
維持会費収入	42,300,000	40,648,000	1,652,000
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	25,000,000	25,310,532	△ 310,532
企画開催事業収入	3,500,000	3,521,000	△ 21,000
40周年記念収入		6,000	△ 6,000
3. その他の収入			
出版編集事業収入	5,000,000	4,384,503	615,497
広告料収入	6,000,000	5,778,500	221,500
4. 雑収入			
受取利息	0	90,257	△ 90,257
雑収入	0	80,000	△ 80,000
5. 取り崩し収入			
50周年準備特定資産取崩収入	1,000,000	86,654	913,346
当期収入合計	85,600,000	82,215,446	3,384,554
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	7,000,000	6,242,120	757,880
式典費	9,700,000	9,713,806	△ 13,806
企画開催費	2,300,000	2,779,111	△ 479,111
原稿料	6,900,000	6,799,994	100,006
編集費	3,500,000	3,072,452	427,548
雑誌印刷費	17,600,000	16,953,863	646,137
発送費	1,770,000	1,725,027	44,973
50周年事業費	1,000,000	86,654	913,346
2. 管理費			
給料手当	17,200,000	17,800,494	△ 600,494
人件費	3,500,000	2,216,130	1,283,870
法定福利費	2,400,000	2,622,685	△ 222,685
福利厚生費	150,000	136,929	13,071
旅費交通費	500,000	666,140	△ 166,140
通信費	1,100,000	1,158,853	△ 58,853
資料費	1,000,000	1,432,697	△ 432,697
会議費	250,000	241,746	8,254
水道光熱費	270,000	281,830	△ 11,830
事務用品費	130,000	120,531	9,469
消耗品費	480,000	470,178	9,822
備品費	600,000	370,381	229,619
修繕費	10,000	0	10,000
諸印刷費	500,000	539,930	△ 39,930
広報費	550,000	469,850	80,150
支払手数料	200,000	175,363	24,637
賃借料	4,000,000	3,939,645	60,355
保険料	800,000	781,281	18,719
交際費	100,000	132,554	△ 32,554
雑費	750,000	778,186	△ 28,186
諸会費	120,000	115,644	4,356
租税公課	120,000	73,000	47,000
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	0
予備費	100,000	0	100,000
当期支出合計	85,600,000	82,897,074	2,702,926
当期収支差額	0	△ 681,628	681,628

貸借対照表

2011年3月31日現在(単位:円)

科目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	28,097,231		
未収入金	3,526,500		
所有物	286,625		
流動資産合計		31,910,356	
2. 固定資産			
賃借権利金等	32,241		
差入保証金	4,099,500		
特定資産			
志賀基金	100,048,337		
退職給付引当金	19,104,068		
50周年準備引当金	4,913,346		
固定資産合計		128,197,492	
資産合計			160,107,848
II. 負債の部			
未払金	5,245,779		
前受金	1,725,000		
預り金	306,738		
退職給付引当金	19,104,068		
50周年準備引当金	4,913,346		
負債合計			31,294,931
III. 正味財産の部			
志賀基金	100,000,000		
その他の正味財産	28,812,917		
正味財産合計			128,812,917
(うち基本金)			0
(うち当期正味財産増加)			△ 681,628
負債及び正味財産合計			160,107,848

正味財産増減計算書

2010年4月1日～2011年3月31日まで(単位:円)

科目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
現金預金増加額	111,300		
未収入金増加額	216,000		
特定資産増加額	48,337		
2. 負債減少額			
前受金減少額	60,000		
預り金減少額	100,139		
50周年引当金減少額	86,654		
増加額合計		622,430	
II. 減少の部			
1. 資産減少額			
賃借権利金減少額	128,961		
2. 負債増加額			
退職給付引当金増加額	1,000,000		
未払金増加額	175,097		
減少額合計		1,304,058	
当期正味財産増加額			△ 681,628
前期繰越正味財産額			129,494,545
期末正味財産額			128,812,917

第四号議案

放送批評懇談会

2011年度事業計画



2011年度総務事業計画

1. 50周年記念事業

記念事業プロジェクトを中心に、①50周年記念出版、②ギャラクシー賞トロフィリニューアル、③データベース事業を検討、推進します。

メンバー：音 好宏 橋本 隆 入江たのし 川喜田 尚
限部紀生 上滝徹也 坂本 衛 嶋田親一
中島好登 永田俊和 藤田真文 藤久ミネ

2. 志賀信夫賞

第3回の選考、表彰を行います。

3. 第11回「日韓中テレビ制作者フォーラム札幌大会」

2011年9月22日～24日、日本・札幌で開催される第11回大会「日韓中テレビ制作者フォーラム札幌大会」の実行に、放送人の会、放送番組センターとともにあたります。

この大会に運営スタッフとして事務局員若干名を派遣するとともに、正会員の自費参加者も加えて大会の成功に寄与します。

また、この大会の運営に関しては、財団法人JKAから助成を受けています。運営経費は特別会計として処理を行います。

4. 維持会員の加入促進

東日本大震災の経済動向への影響が計り知れず、また完全デジタル化後の放送経営も不透明感が広がっています。「GALAC」広告収入、ギャラクシー賞参加料収入、シンポジウム参加料などの前年確保は困難が予想されます。



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

財務プロジェクトの協力を得て、維持会員の拡張、財務の健全性確保を図ります。

財務プロジェクトメンバー：音 好宏 橋本 隆 石井 彰
市村 元 小田桐 誠 永田俊和 信井文夫 堀木卓也
宮前周司

5. その他

2010年9月に事務局に導入したテレビ番組録画装置「スパイダー」の機能を利用し、3月11日以降の震災・原発報道（テレビ）の記録保存に努めます。一事業体では困難な録画量であるため、法政大学社会学部など外部の研究機関とも随時協力して作業を行います。



2011年度出版編集事業計画

1. 本年度は下記のメンバーで運営します。

委員長	丹羽美之		
副委員長	飯田みか		
委員	岡田芳枝	古賀靖典	高瀬 毅
	滝野俊一	中村美子	桧山珠美
	水島宏明	山本博史	渡辺久哲
編集スタッフ	中島好登	福島美子	高橋秀樹

2. 毎月6日に「GALAC」を発行します。本年度の運営方針は以下の通りです。

- 1) 批評を通じて放送文化の発展・向上に貢献する雑誌を目指します。
- 2) とりわけ本年度は東日本大震災に関する話題に重点的、継続的に取り組みます。その他にも、特集のテーマや視点を工夫し、現在の放送を取り巻く様々な課題を幅広く取り上げるように努めます。
- 3) 選奨事業委員会や企画事業委員会と連携しながら、イベントや出版と連動した誌面展開を考えます。
- 4) 新たな書き手を発掘し、誌面の活性化を図ります。
- 5) 原稿料、編集費、印刷費など適正なコストを実現していますが、引き続きこれに努力します。
- 6) 発行部数は引き続き約4000部を見込んでいます。
- 7) 500号記念プロジェクト（「放送批評」「GALAC」の全表紙、全目次を放送批評懇談会のウェブサイト公開）の完成を目指します。
- 8) 記事提供を行うポータルサイトを増やし、ネット展開さらに進めます。



2011年度選奨表彰事業計画

1. 2011年度は下記の委員構成で運営します。

選奨事業委員長 小田桐 誠

<テレビ部門委員会>

委員長 上滝徹也

副委員長 川喜田 尚

委員 石橋さや夏 岩根彰子 小磯 亮 隅井孝雄

高村 裕 田中早苗 戸田桂太 中町綾子

桧山珠美 藤田真文 吉田正樹

<ラジオ部門委員会>

委員長 桜井聖子

副委員長 高瀬 毅

委員 石原信和 木原 毅 黄 莉香 近藤倫章

さらだたまこ 武田三千代 田代勝彦

塚本 茂 原 きよ 深井教雄 ペリー荻野

<CM部門委員会>

委員長 五井千鶴子

副委員長 稗田政憲

委員 入江たのし 鈴木ゆかり 田家秀樹

田中典子 谷岡理香 本庄雅之 丸茂 巧

茂出木龍太 諸橋泰樹 山川浩二

<報道活動部門委員会>

委員長 碓井広義

副委員長 市村 元

委員 今村庸一 小田桐 誠 加来由子 兼高聖雄

鈴木典之 鈴木嘉一 中村正敏 堀木卓也

宮前周司

選奨事業委員会担当事務局 福島美子



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

2. 第49回ギャラクシー賞（2011年度）の審査、ならびに贈賞式を行います。

3. 2011年度の運営方針は以下のとおりです。

選奨事業については、これまでの歴史と伝統を生かしながらも事業全体と4部門の問題点を洗い出し、改善・改革を進めることで、ギャラクシー賞のクオリティと社会的な存在意義をさらに確かなものになりたい。

1) テレビ部門委員会の運営

日々の視聴に基づく選奨を大切にするとともに、応募番組の熱意にも敬意を払って、ギャラクシーの名に恥じない番組批評を心がけます。そのためには、テレビの文化的特質と社会的機能への意識を常に働かせ、すべてのジャンルを選奨の対象としなければなりません。そうしなければ、視聴者から遊離した批評になりかねないからです。また、地上波だけでなく、BS等々の番組にも視野を広げることも求められます。

多様なメディア環境と厳しい経済環境に直面する時代、テレビ文化の継承と明日への指針に資する選奨、なによりも現場制作者への精神的な支援となるような批評活動を目指します。

また、受賞番組と制作者の志を広く知って頂くために、「受賞番組の上映&語る会」を開催します。

2) ラジオ部門委員会の運営

ラジオの動きを側面から支える批評活動となるよう、委員全員で番組批評の質の向上と充実を心掛けます。

毎月の合評会では今後の番組づくりへの提言、ラジオ業界の活性化に繋がるPEOPLEやTOPICSに着目すると同時に



東日本大震災に関連した支援番組の取り上げ方やコミュニティFMの活動を評価する方法論も探っていきます。

さらに Twitter、Ustream などデジタルツールとの融合やIPサイマルなど接触回数が確実に増えたことを受けて、局の対応が求められる中、送り手側が今ある課題をどう番組に反映していくかなど、次なるステージでの相互関係を考察します。

「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」は、優れた作品の紹介が制作者の活力となり、番組の向上とともに今後のギャラクシー賞応募に繋がると考えています。

放送局の枠を超えてラジオ関係者の意見交換の場ともなるように努め開催の告知方法を検討しながら動員数の安定と引き続き、若い世代の参加者の強化を図ります。

3) CM部門委員会の運営

7月24日。一部の地域を除いていよいよ地上デジタル放送がはじまる。新しい広告技術が推進されるのは間違いない。CMはどんな迫力で、いかなる感動で私たちに訴えてくるのだろうか。ワクワクするし、楽しみだ。

3月11日の大震災以来、広告界も大激震に襲われた。売らんかな、という広告表現がある一方で、人に寄り添い、絆を深め、元気と感動をもたらすCM表現の構築に、クリエイターたちは鎬を削っている。それらのニッポンを元気にするCMの登場が、復興の小さな一歩になると信じていたい。

また、あまたあるCM広告賞の中でも、ギャラクシー賞のCM部門は特異な存在である。ナショナルスポンサーも、ひとつの地域のみで放送されるローカルスポンサーも同じ土俵の上で評価を競ってきた。しかし、選ばれたCMのすべてを、特にローカルの優秀なCMをご覧いただける機会がほとんどないことが残念である。選奨委員会を選んだ



CMのすべてを見ていただく方法があるやなしか、模索中である。

CM部門委員会では、新しい可能性を求めてチャレンジする多くの広告人に敬意を払い、生活者に寄り添い、人のところに届くテレビCMの存在に注目して、選奨活動をすすめていきたい。

4) 報道活動部門委員会の運営

ギャラクシー賞報道活動部門の「審査基準」を以下のように設定しました。

1) テーマや視点の時代性、社会性

「今、何を、どのような視点から取り上げるのか」という活動の基本の中に、時代性や社会性がある。

2) 取り組みや手法の柔軟性、工夫

既成概念にとらわれない柔軟な取り組み。手法や表現に独自の工夫がある。

3) 取材・調査の精度

伝える内容に関する取材や調査の精度に対する評価。

4) 活動の継続性、日常性

活動が一過性ではなく、テーマをより掘り下げながら、粘り強く継続的、日常的に行われている。

5) 視聴者や聴取者、地域とのコミュニケーション

活動が一方向的なものではなく、視聴者や聴取者とのコミュニケーションを通じた、地域との連携・連帯・共生を実現している。

6) 活動が生み出した成果、影響

活動が社会によき影響を与えるなど、何らかの実質的成果を生んだことの評価。

7) 放送ジャーナリズムとしての意義・意味

活動が「放送ジャーナリズム」ならではの意義や意味をもつ。



以上の基準項目を踏まえつつ、総合的な評価を行います。また、活動主体の置かれた状況や環境にも目配りしながら、全国でのさらなる活発な報道活動を喚起するような顕彰を目指します。

この基準を踏まえて、今年度も引き続き、地域の放送ジャーナリズム活動、既存メディアがあまり取り上げない問題に光を当てる報道、さまざまな制約と格闘しながら信じる主張を貫く報道、既存メディアの枠組みを打破し自らの新しい可能性を追求する報道などを、丁寧に見ていきます。キー局はもちろん、地上局、地方局、独立U局、CATV局、ラジオ局、番組制作会社、フリージャーナリスト、その他の団体などからの応募がより活発となるよう、賞についての広報を推進します。また、10～11月を目処に、今年度で4回目となる公開シンポジウム「ギャラクシー受賞報道活動を見て、制作者と語る会」を開催する予定です。



2011年度企画開催事業計画

1. 2011年度は、放送の今日的課題をめぐるシンポジウムの開催をはじめ、テーマを絞ったセミナー・研究会の開催を企画・立案・実施します。また、放送批評懇談会の根幹である「放送批評とは何か」について、対外的に発信する企画を立案します。
2. 本年度の企画事業委員会は、下記の委員で構成します。
委員長 藤田真文
副委員長 山田健太
委員 砂川浩慶 永田俊和 中平良磨 藤田高弘
堀木卓也 前川英樹 元橋圭哉（シンポジウム企画担当）
小林 毅 小林英美 深川 章（出版企画担当）
3. 2011年度は、7月の地上デジタル放送への完全移行を経て、放送をめぐる急速な変動が予想されます。このような状況下で、社会・視聴者に資する望ましい放送のあり方、厳しい経営を余儀なくされる地域民放局の活路などを探っていくことが必要になっていくように思われます。
このような認識のもと、2012年3月の大型シンポジウムおよび年数回のセミナーの企画などに取り組んでいきます。
4. 記念事業プロジェクトと連携して、放懇の50周年記念に出版を計画する『放送批評の50年（仮題）』の編集実務に協力し、完成に向けて作業を進行させていきます。
5. 事業実施にあたっての基本的方針は、以下の通りとします。



NPO 放送批評懇談会

第7回通常総会 2011

- ①会の財政を考え当委員会の事業全体としての黒字を目指す。
- ②他の委員会の企画との有機的な連動を図る。



2011年度マイベストTV賞

プロジェクト事業計画

1. 以下のメンバーで運営します。
プロジェクトリーダー 滝野俊一
メンバー 石橋さや夏 永田俊和 桧山珠美
事務局 久野 明
2. Web会員の登録者を増やすべく、関連サイトへの広報活動を強化します。たとえば「mixi」や番組の掲示板などを積極的に利用し、マイベストTV賞を認知してもらうべく草の根的な活動を行います。また、さらに大学生など若年層の会員を増やすべく、大学関係者へ働きかけます（チラシ配布の協力など）。
3. ツイッターなどの新しいメディアを活用し、会員への広報活動を積極的に行います。
4. スマートフォン対策としてマイベストTV賞“アプリ”の作成を検討します。
5. 第6回「マイベストTV賞グランプリ」を決定し、第49回ギャラクシー賞贈賞式で表彰します。また、2009年度に実施した「深夜番組」のように、毎月の候補作品に漏れていたレギュラー番組などを選考の対象に入れる試みも実施します。

第五号議案

放送批評懇談会

2011年度収支予算

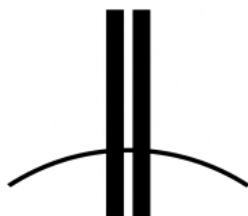
2011年度予算案

2011年4月1日～2012年3月31日まで（単位：円）

科目	2010決算額	2011予算	摘要
I. 収入の部			
1. 会費等収入			
会費収入	2,310,000	2,790,000	正会員会費
維持会費収入	40,648,000	43,940,000	維持会員会費
2. 事業収入			
選奨表彰事業収入	25,310,532	25,000,000	参加料, 贈賞式会費
企画開催事業収入	3,521,000	3,500,000	シンポジウム参加料
40周年記念収入	6,000		
3. その他の収入			
出版編集事業収入	4,384,503	5,000,000	GALAC販売
広告料収入	5,778,500	6,000,000	GALAC広告
4. 雑収入			
受取利息	90,257		
雑収入	80,000		
50周年準備特定資産取崩益	86,654	3,500,000	50周年事業のための資金
当期収入合計	82,215,446	89,730,000	
II. 支出の部			
1. 事業費			
選奨費	6,242,120	6,260,000	選奨委員会, 審査会運営
式典費	9,713,806	9,700,000	ギャラクシー賞贈賞式開催費
企画開催費	2,779,111	2,500,000	シンポジウム開催費
原稿料	6,799,994	6,700,000	GALAC原稿料
編集費	3,072,452	3,000,000	GALAC編集費
雑誌印刷費	16,953,863	16,950,000	GALAC印刷費
発送費	1,725,027	1,730,000	GALAC発送費
50周年事業費	86,654	3,500,000	トロフィ刷新, 50周年出版, DB事業
2. 管理費			
給料手当	17,800,494	21,600,000	職員給与
人件費	2,216,130	2,000,000	契約職員, 臨時職員経費
法定福利費	2,622,685	3,300,000	社会保険など
福利厚生費	136,929	150,000	職員, 委員の時間外作業飲食費
旅費交通費	666,140	700,000	職員, 役員交通費
通信費	1,158,853	1,050,000	郵便, 宅配便, 電話, ネット
資料費	1,432,697	1,000,000	新聞, 雑誌, 書籍, スパイダー
会議費	241,746	250,000	理事会, プロジェクトの会議費用
水道光熱費	281,830	250,000	水道代, 電気代
事務用品費	120,531	120,000	事務用品, PC周辺機器も含む
消耗品費	470,178	450,000	コピー機使用料, 日用品
備品費	370,381	520,000	テレビ, DVD, 音響機器, PC
修繕費			修理費用
諸印刷費	539,930	400,000	封筒, 名刺など
広報費	469,850	470,000	ホームページ運営, 日韓中フォーラム経費
支払手数料	175,363	180,000	振込手数料, 更新手数料
賃借料	3,939,645	4,000,000	事務所賃借, ネット機レンタル
保険料	781,281	800,000	職員保険(退職金補填), 火災保険
交際費	132,554	100,000	冠婚葬祭, 中元, 歳暮
雑費	778,186	750,000	税理士, 社会保険士
諸会費	115,644	120,000	友好団体加入による会費
租税公課	73,000	80,000	法人税, 事業税
退職給付引当金繰入	1,000,000	1,000,000	毎年100万円の積み立て
予備費	0	100,000	予備の予算
当期支出合計	82,897,074	89,730,000	

日韓中テレビ制作者フォーラム特別会計予算案
2011年4月1日～2012年3月31日まで（単位：円）

科目	2011予算	摘要
I. 収入の部 助成金収入	8,616,000	財団法人JKA補助金交付事業
収入合計	8,616,000	
II. 支出の部 日韓中テレビ制作者フォーラム札幌大会運営費	8,616,000	
支出合計	8,616,000	



NPO／特定非営利活動法人

放送批評懇談会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F

Tel. 03-5379-5521 Fax. 03-5379-5510

kondankai@houkon.jp <http://www.houkon.jp/>